

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	障害児保育の充実						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		212,642	千円	234,034	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて保育所での集団生活が可能な障害のある子どもの受け入れを行います。また障害のある子どもの福祉の向上と、保護者の就労を支援するため、関係機関の協力のもと、保育所での集団生活が可能な重度の障害のある子どもを直営保育所で受け入れます。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	保育所での集団生活が可能な障害児を通常保育だけでなく、延長保育、一時保育での受け入れを行います。また、保育所での集団生活が可能な重度の障害児を直営保育所で受け入れます。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		通常保育における障害児の入所状況 障害児の受け入れを全保育所で行っていることから通常保育における障害児の入所可能施設数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	160 箇所 (100%)	163 箇所	163 箇所 100.0 %	大変順調
	特別保育事業における障害児の入所状況 保護者の仕事と子育ての両立支援を図るため、通常保のみならず特別保育事業においても、一時、延長保育の実施保育所で障害児の受け入れを行っていることから、特別保育事業における障害児の入所可能施設数を指標としました。 (最終目標と最終年度)延長保育153箇所 一時保育64箇所(平成26年度)	(延長保育) 148 箇所 (一時保育) 67	(延長保育) 149 箇所 (一時保育) 71	(延長保育) 149 箇所 (一時保育) 71 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成27年3月1日現在、113施設で349名の障害児を受け入れました。直営保育所では重度障害児23名を受け入れました。 障害の有無にかかわらず、一緒に保育し、ともに育ち生活する中で、相互の健全な育成を図ることができます。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、なおかつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、障害児保育のニーズは高まると予想されます。有効性は、高いと思われます。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在は障害児数に応じた職員配置を、常勤やパートで行っており効率性は高いと考えます。これ以上のコスト削減は困難と考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

本事業は、児童の福祉向上に資するところも大きく、保護者の就労支援、子育て支援を図る上で施策に対する有効性も高く、今後も関係機関との連携、研修、会議等内容を工夫しながら、保育の質の向上を図り、着実に取り組むことが適当だと考えます。
統合保育が可能な障害のある子どもについては、引き続き全保育所で受け入れます。
加えて、一時・延長保育を実施している保育所では、在宅障害児の一時保育、在園障害児の延長保育も行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	保育所・幼稚園等から小学校・特別支援学校への連絡体制・情報の共有機能の強化						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 保育所・幼稚園等と小学校・特別支援学校が、特別な支援が必要な児童についてのケース会議を持ち、就学に向けた入学児童の一人ひとりの引継ぎ資料等を作成するなど、入学時の連絡体制・情報共有機能を強化します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	就学に向けて児童一人ひとりの連絡体制・情報共有機能を強化します。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	保育所指導保育要録の送付	認可保育所では、保育所保育児童要録、幼稚園では幼稚園幼児指導要録を就学先の小学校・特別支援学校へ送付し、児童一人ひとりについて、情報共有を図っていることから、要録の送付施設数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）	262 施設 (99.6)%	262 施設	260 施設 99.2 %	大変順調
小学校・特別支援学校との連携体制の強化 各学校における連絡会等の内容や開催時期等の差がありますが、全就学先で実施が可能となるように、教育委員会と連携していきます。 （最終目標と最終年度）		—	—	—	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	北九州市内の全認可保育所は、保育所児童保育要録を、幼稚園は幼稚園幼児指導要録を、3月に小学校へ送付し、小学校入学児童の一人ひとりについて、情報の共有を図りました。就学前教育において、入学の連絡体制、情報共有機能を強化するために、有効性は高いと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現行の組織体制の中で、それぞれの連携強化をもって対応しており、特段の予算はかけていないため、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

障害のある子どもを含めたすべての子どもの生活と発達を理解するうえで、個別の情報伝達は大変重要です。保育所児童保育要録、幼稚園幼児指導要録の送付やさらに各校での連絡会の実施等、入学時の連絡体制・情報共有機能の強化は必要と考えています。今年度も保育所の全卒園児の保育所児童保育要録、幼稚園幼児指導要録を小学校に送付し、小学校との円滑な接続を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	一時保育事業						掲載ページ		
							176		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		45,049	千円	51,336	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保護者のパート就労や冠婚葬祭、及び育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育します。今後は、実施施設数を増やします。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	引き続き一時保育実施施設を増やし、子育て家庭等の支援を行います。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	一時保育事業を実施する保育所		67 施設	64 施設	71 施設	110.9 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	実施保育所数を増やすことで、保護者の就労等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育することができると考え、活動指標としました。 （最終目標と最終年度） 64箇所、（平成26年度）							
							順調	順調
（最終目標と最終年度）						やや遅れ		
						遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度は4施設で新規開設を行い、全71施設において年間延べ23,242人の児童が利用したことから順調としました。一時的な就労等多様化する就労形態への対応や、専業主婦等の育児リフレッシュへの対応等について有効です。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	補助金は利用児童数に応じた額となっており、限られた補助の中で人員を配置し実施するなど、合理的に事業を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
一時保育を幅広く展開していくことで、待機児童の解消や子育て支援家庭への支援にも繋がることから、今後も一時保育の実施施設の増加を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	障害児通園施設の機能強化						掲載ページ		
							176		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,550	千円	2,488,732 <small>(障害児通園・入所支援事業の総額。本事業はその一部)</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	障害児通園施設の専門的療育機能を強化するとともに、専門機関としての地域の保育所等への支援を強化します。 また、保護者の就労支援やレスパイトについても配慮した対応について検討します。	活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動計画	保育所等へ巡回相談事業を行います。			

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		保育所等への支援件数 専門的機能を活かした取組みであり、地域の保育所等に対する支援の度合いをはかる目安になると考え、掲げました。 （最終目標と最終年度）	203 件	—	6 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
保育所等訪問支援事業の実施件数 保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関り方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）		183 件	増加	623 件		

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保育所などへの巡回相談は減少しました。（平成25年度183件→平成26年度6件）理由としては、児童福祉法の法定サービスである保育所等訪問支援事業に利用者が移行していることが考えられます。 一方で、保育所訪問支援事業は623件と昨年度に比べ3倍を超える支援を行ったことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	巡回相談は指定管理者に指定管理しており、直営で行うことに比べ低コストで実施しています。また、保育所等訪問支援事業は法律で単価が定められており、経済性・効率性は向上できません。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

保育所への巡回については、法定サービスである保育所等訪問支援事業への移行が考えられます。保育所等訪問支援事業へ移行されてきていることから、今後は、順調に行われているか注視していく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	障害児入所施設の機能強化						掲載ページ		
							176		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		36,111	千円	2,488,732 <small>(障害児通所・入所支援事業の総額。本事業はその一部)</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害児施設の専門的・技術的機能を活かし、地域の障害のある子どもへの相談支援機能強化を図ります。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	障害児入所施設において障害のある子どもへの相談支援を強化します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	外来療育相談件数		858 件	-	465 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	在宅の障害児(者)及び家族等に対し、外来の方法により、各種の相談・指導を実施します。相談件数が障害者の利便向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)						
						順調	順調
					やや遅れ		
					遅れ		
		(最終目標と最終年度)					

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	外来を利用していた人の一部が、他の制度へ移行したため、相談件数は減少しました。他の利用者については、これまでどおり障害児施設の特徴を活かし様々な相談を受け、外来相談が実施されたことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを有する団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
引き続き、障害児施設において、外来相談事業を実施していきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する全市的な相談支援体制の整備 (旧:特別支援学校のセンター的機能の整備 と 旧:特別支援教育相談センターにおける相談事業を統合)						掲載ページ		
							176		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		27,764	千円	44,955	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害のある児童生徒が自立や社会参加している状態。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	市内の小・中学校、園がそれぞれの機能を活かし相談支援体制を確立できるようになるまで指導助言を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	特別支援教育コーディネーターを指名している学校園数	211 校	211 校	211 校	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	特別支援教育コーディネーターの効果的な活用ができるよう指導助言を行っています。 (最終目標と最終年度)			100.0 %			
	就学相談と通級相談の申し込み数(実数)	1,026 人	1,000 人	1,046 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
申し込み数が増加している就学相談や通級相談のシステムを改善することで保護者・子ども・学校への対応がスムーズにできるようにします。 (最終目標と最終年度)	104.6 %						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	全ての市立幼、小、中、高校では、特別支援教育コーディネーターを指名し、校内委員会を設置しています。今後は、校内の相談支援体制が確立できるよう指導助言を行っていきます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効率的な相談業務を行うことで、コスト削減に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
特別支援教育相談センターの相談機能を強化し、全ての市立幼、小、中、高校学校の体制整備の一層の促進・質の向上を図ります。特別支援教育相談センターの相談機能を強化するために、専門家(言語聴覚士)の配置を引き続き検討します。